

5. 農林水産品の物流効率化に向けた取組

5. 農林水産品の物流効率化に向けた取組

(1) 総論

○ 物流2024年問題への対処手法

○ 対応策は、①長距離輸送の削減、②荷待ち・荷役時間の削減、③積載率の向上・大ロット化、④トラック輸送への依存度の軽減の4類型。

対応策の4類型

	対策の類型	手法の具体例
トラック輸送	①長距離輸送の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・中継輸送（※） ・集荷・配送と幹線輸送の分離
	②荷待ち・荷役時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・標準仕様パレットの導入 ・トラック予約システムの導入
	③積載率の向上・大ロット化	<ul style="list-style-type: none"> ・共同輸送（※） ・段ボールサイズの標準化
その他	④トラック輸送への依存度の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道・船舶へのモーダルシフト

（※）あわせてコールドチェーンの確保（予冷設備の整備等）が必要



標準仕様パレットの導入



モーダルシフト



段ボールサイズの標準化



現在の取組・支援策

対象	取組・支援策
荷主事業者 物流事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自主行動計画」の作成 ・ 青果物、花き等の分野や、生産者、卸売業等の業種ごとに、物流改善に向けた「自主行動計画」を年内に作成。計画に沿って取組を実践。
産地	<ul style="list-style-type: none"> ○ 強い農業づくり総合支援交付金（産地基幹施設） ○ 産地生産基盤パワーアップ事業 ・ 産地の集出荷貯蔵施設等の整備、パレタイザー導入に係る施設の改修等。
卸売市場 産地 物流事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生鮮食料品等サプライチェーン緊急強化対策 ・ 中継輸送、標準仕様パレットの導入、共同輸送、モーダルシフト等の実証及び設備・機器の導入。
卸売市場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 強い農業づくり総合支援交付金（卸売市場） ・ 物流の効率化に資する卸売市場、共同物流拠点の整備・機能強化。

○ 全国各地の動向

○ 各地域・品目で荷待ち・荷役時間の削減、モーダルシフト等の取組の動き。

東北・北陸

青森→大阪

米を中心とした農産物の**鉄道輸送**
新潟・金沢などの途中駅でも積み込み



北海道

かぼちやの11型パレット輸送
11型パレットに合致した段ボールを試作



鳥取

なし、すいか、ねぎ、ブロッコリー等で
パレット輸送

島根

ぶどう、かき、ブロッコリーで**パレット輸送**

佐賀

東京向けいちごの**鉄道輸送**
振動抑制パレットを活用



熊本

かんきつ選果場を整備
ロボットによるパレットへの積付け



愛媛

愛媛→千葉

みかん（伊予柑）の**船舶輸送**

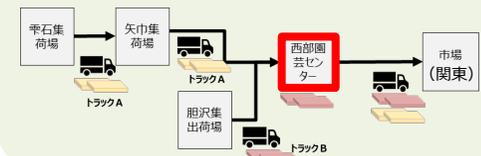


秋田

県内の集荷と東京への幹線便を分離
幹線輸送の便数を集約して積載率を向上

岩手

県内の複数品目をパレット化
関東までの**幹線輸送の便数を集約**して混載



東京

卸売市場に**トラック予約システム**を導入
パレット管理のルール化、機械導入



愛知

県内の集荷と消費地への幹線便を分離
幹線輸送の便数を集約して積載率を向上

大阪

卸売市場内の動線を見直して渋滞を緩和
荷降ろし待ち時間を縮減

5. 農林水産品の物流効率化に向けた取組

(2) 標準化ガイドラインの策定

○ 青果物流通標準化ガイドライン

- 令和3年9月に、荷主団体、卸売団体、物流事業者等から構成される「青果物流通標準化検討会」を設置。
- パレット循環体制、外装サイズ、コード・情報、場内物流について議論を行い、令和5年3月にガイドラインを策定。

ガイドラインの概要

○ パレット循環体制

1. サイズ・材質

- 原則1.1m×1.1m (11型)
- プラスチック製を推奨



2. 運用

- 利用から回収までレンタルが基本
- パレット管理が不可欠。青果物流通業者の意識醸成が必要
- パレットの情報共有システムの構築・導入を推進

○ 外装サイズ

1. 最大平面寸法

- 最大平面寸法は1.1m×1.1m
- パレットからはみ出さないように積み付け

2. 最大総重量

- プラスチックパレットの耐荷重を踏まえて1t (積み付けの様子)



3. 荷崩れ防止・品質劣化防止

- 湿気による品質劣化を防止するよう、簡潔なラッピング

4. 外装サイズの寸法

- 品目ごとに標準となる段ボールサイズを順次設定。導入産地を順次拡大。

(荷崩れ防止策)



○ コード・情報

1. 納品伝票の電子化

- 送り状、売買仕切書を優先
- 送り状・売買仕切書の標準的な記載項目を提示

2. コード体系の標準化

- 商品では青果物標準品名コード (JA全農のベジフルコード) を活用
- 事業者では県連、JA、市場の事業者コードを活用



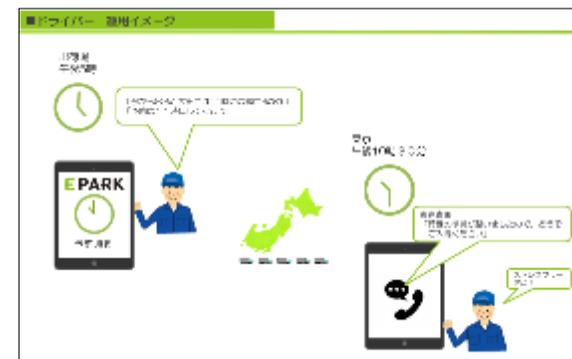
○ 場内物流

1. トラック予約システム

- 到着時間等を予約。荷下ろし待ち時間を削減。

2. 場内物流改善体制の構築

- 開設者を中心に、卸売業者、仲卸業者等による場内物流改善体制を構築
- 市場内のパレット管理、荷下ろし等の秩序形成、法令遵守を促進



○ 花き流通標準化ガイドライン

- 令和4年7月に、卸売団体、流通事業者等から構成される「花き流通標準化検討会」を設置。
- 11月以降は構成員に出荷団体、物流事業者等を加え、台車、パレット、外装、コード・情報について議論を行い、令和5年3月にガイドラインを策定。

1. 台車

- 産地の出荷拠点から卸売市場までの幹線輸送における手荷役解消のため、台車での輸送を推奨。
- 鉢物については、全国的に利用されているフル台車のサイズと実証実験で開発したハーフ台車のサイズを標準的な台車のサイズとして推奨する。



(写真左) フル台車 : W1055mm×D1285mm×H2068mm
(写真右) ハーフ台車 : W520mm×D1280mm×H1900mm

- 切り花については、使用実態に応じ原則としてフル台車、ハーフ台車での輸送を推奨する。

台車の統一

2. パレット

- 産地の出荷拠点から卸売市場までの幹線輸送における手荷役解消のため、パレットでの輸送を推奨。
- 平面サイズ1100mm×1100mm（下写真）を標準とする。



パレットサイズの統一

3. 外装

- 標準の平パレット1,100mm×1,100mmに合わせ、例えば次のようなサイズの横箱段ボールの使用を推奨する。
 - タイプA ; 長さ1,100mm×幅360mm×高さ260mm
 - タイプB ; 長さ1,100mm×幅360mm×高さ173mm
 - タイプC ; 長さ1,100mm×幅360mm×高さ130mm
 - タイプD ; 長さ1,100mm×幅275mm×高さ130mmなど



(写真はT11パレットに4種類の切り花標準箱を積み上げた様子▲)

- 品目特性を踏まえて、必要に応じて縦箱段ボールの使用も可能とする。
- 検品作業等が効率的になるようラベル等の表示の向きをそろえた積み付けモデルを推奨する。

段ボールサイズの統一

情報伝達方式の統一

4. コード・情報

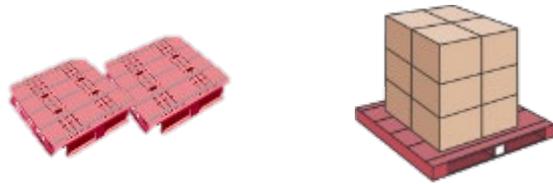
- ペーパレス化・データ連携を前提とし、帳票の標準項目を定める。

○ 水産物流通標準化ガイドライン（豊洲市場を中心とした水産物流通）

- 令和5年5月に、卸売業者、物流事業者等から構成される「水産物流通標準化検討会」を設置。
- パレットサイズ・材質、箱のサイズ・材質、パレット管理等について議論を行い、令和6年3月にガイドラインを策定。

1. パレットサイズ・材質

- パレットのサイズは、平面1,100mm×1,100mmを標準とする。
- パレットの材質は、衛生面、耐久面等から、プラスチックを推奨。



2. 箱のサイズ・材質

- 箱のサイズは、平面1,100mm×1,100mmのパレットに合う箱サイズを推奨。
- 箱の材質は、発泡スチロールのリサイクルの観点から、以下の項目を産地に要請することを推奨。
 - シール又はテープを貼る際は、PS（ポリスチレン）を素材としたものを使用。
 - リサイクルが不可能な外装や、不用な包装は控える。
 - 発泡スチロールの色は白で統一し、色付けは控える。



3. パレット管理

- 荷主等は、パレット管理の責任者を置き、場内の荷役作業や動線に支障を来さない位置に保管場所を定めて、パレットが紛失や破損しないように管理を行うよう努める。
- 当該責任者は、今後のパレット管理ルール の在り方など、場内外の物流改善に向けた協議を行うよう努める。

